



## 年頭にあたって BP第2弾

# “きょうだいが生まれた！”スタートの年に!!

本会代表(精神科医) 原田 正文

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

今年タイトルにありますように、BPプログラム第2弾「親子の絆づくりプログラム“きょうだいが生まれた！”」(愛称:BP2プログラム)のスタートの年にしたいと考えています。

BP2プログラムについては、2016年2月11日に新しいプロジェクトを立ち上げて、1年間近く検討を進めていることを、昨年1月号の本誌でお知らせしていました。それからさらに1年が経ち、BP2プログラムは完成の目途がついてきました。そこで、今年4年ぶりにKKIフォーラムを9月に開催し、BPプログラムの8年間を振り返るとともに、BP2プログラムの発表をしたいと考えています。KKIとしては、第26回目のフォーラムになります。

### なぜ今、BP2プログラムか

BP2プログラムの具体的内容に入る前に、なぜKKIはBP2プログラムを制作することになったのか、について説明します。

ひとつは、子育て現場のニーズです。BPプログラムを始めた時から、第2子以上の赤ちゃんを育てているお母さんからは、「私は参加できないのですか」という訴えを聞いていました。赤ちゃんの世話をしながら、自我がめばえる幼児期の上の子どもへの対応に困っている様子は眼に浮かぶようでした。ただ、KKIとしては、BPプログラムを発表し、ひろげていこうとしている段階でしたので、新しいプログラムに取り組む余裕がありませんでした。しかしそんなことを言っておれない状況も分かっていましたし、KKIにも余力が出てきたこともあり、2年前から新プログラムの作成に取り組んできました。このプログラムは、幼児期の子育てがテーマですので、内容的には作り甲斐のあるものでした。

### なぜ0歳児にこだわるのか

2つ目の理由は、第2子以上の子どもでも0歳時期の過ごし方が極めて大切だからです。BP2プログラムは確かに幼児期の子育てに焦点のひとつを当てていますが、第2子以上の2~5か月の赤ちゃんがプログラムに母親とともに参加します。赤ちゃんにこだわる点はBPプログラムと同じです。

とはいえ、「2・3歳になれば、もう手遅れか」というとそうではありません。人間は強いようで弱い、弱いようで強い生きものです。気がついた時からでも手遅れということはありません。そういう意味では、もしも0歳時期の心の発達課題の獲得が不十分な上の子でも、BP2プログラムに参加して、親子の絆を深めることの大

切さやその方法を親が身に着けると、0歳時期の心の発達課題を獲得しなおすことが可能になります。

### 子育て支援とは何か

KKIが新しいプログラムを世に問う3つ目の理由は、今国を挙げて行われている「子育て支援」は、ほんとうに支援になっているのか、という疑問です。2016年に放映されたNHKスペシャル「ママたちが非常事態!?」では、日本の子育てがこんなに困難になっている原因は、日本の7割の母親が孤立して子育てをしているからである、と結論づけました。その結論は、本会が22年前から掲げている子育て支援の目的に合致するものです。そして、BPプログラムは、「親が親としての役割を果たせるように支援するのであり、ファシリテーターが親の役割を取ってはいけない」という考え方を徹底させています。

ところが、現実の子育て支援では、親同士をつなげて、親の主体的な共同子育てを専門職が支援するというような方法は、「ポピュリズム」と称され、否定する雰囲気急速に強まっています。そして、問題などを抱えた親子に専門職が直接支援するという方法が主流になっています。そのような中で、高級旅館に個別の親子と専門職が泊り込み、集中して育児を教えるというような、耳を疑うような支援が広がりつつあります。しかし、子育ては日常生活ですから、専門職が短期間に集中して教えても効果が上がるものではありません。

### BP2プログラムの枠組み

新しく作成していますBP2プログラムとはどのようなプログラムなのか、まずその概略を説明します。表1にBP2プログラムの枠組みを示しています。対象者は、第2子以上の赤ちゃん(2~5か月)を育てているすべての母親です。ただし、幼児期の子どもがいるご家庭に限ります。人数は、5組~20組です。当然、第1子の際にBPプログラムを受講した方も参加できます。また、赤ちゃんとも母親と一緒にプログラムに参加してもらいます。そして、上の子は一時保育をします。そのため、プログラムをする部屋と一時保育の部屋が必要です。

プログラムの進行は、BP2認定ファシリテーター2名で進めます。ただし、参加者が10組までの場合は、1名のファシリテーターでも可能です。ただし、1名の場合には安全確保などのために1名のアシスタントをつけます。なお、BP2ファシリテーター養成講座は2日間の講座ですが、受講資格はBPJ認定BPファシリテーターのみです。

回数と時間は、1回2時間、毎週同じ曜日、同じ時間帯で連続5回実施します。最初の100分は、ファシリテ

ーターが進行する構造化されたプログラムで、各回のテーマや実施する内容が決まっています。後半の20分は、参加者同士が交流したり、質問し合ったりする交流・質問タイムです。このあたりのことはBPプログラムと似ていますが、テーマは上の子の問題に焦点が当たっているとところがBPプログラムとは異なります。

表1 BP2プログラムの枠組み

対象者	第2子以上の2～5か月の赤ちゃんとも母親（幼児期～就学前の子どもがいる家庭）
人数	6-20組 (BPを受けた人も参加可能)
プログラム参加者	第2子以上の2～5か月の赤ちゃんとも母親（上の子たちは一時保育をする）
場所	2つの部屋（プログラムをする会場と、上の子の一時保育をする会場）
実施者	●BP2認定ファシリテーター 2名(10組までの場合は、1名のファシリテーターとアシスタントでも可) ●BP2ファシリテーター養成講座受講可能対象者は、BPJ認定BPファシリテーターである。
時間	2時間
回数・頻度	毎週1回、同じ時間・同じ曜日に連続5回
一時保育	あり（上の子のみ）

### BP2の3つのキーコンセプト

表2に、BP2プログラムの3つのキーコンセプトを示します。1つ目は、「人と人をつなぎ、人と地域を育てる」です。具体的には、親と子をつなぎ、夫婦をつなぎ、親同士をつなぐことにより、親も子も地域も育てるということコンセプトにしたプログラムです。2つ目のコンセプトは、「子どもの心身の発達論をベースに、日々の体験をとおして、子どもとのかかわり方や自分自身の生き方について学ぶ」プログラムです。BPプログラムは初めての赤ちゃんでしたので、焦点が0歳時期に当たっていましたが、BP2プログラムのテーマは、主に幼児期の上の子とのかかわり方・育て方です。3つ目のコンセプトは、「親自身の人生」と「親としての役割」とのバランスや「しつけ」における子どもとのかかわり方におけるバランスなど、バランス感覚を磨くことです。現代の日本社会は完璧思考が支配的ですが、完璧思考は子育てには通用しません。そのため、日々の体験を通して、親自身のバランス感覚を磨くことを3つ目のキーコンセプトにしています。

表2 BP2プログラムの3つのキーコンセプト

1. 人と人をつなぎ、人と地域を育てる
2. 体験から学ぶ
3. バランス感覚を磨く

### BP2のミッション

図1に、BP2プログラムのミッション（使命）を3つの時期に分けて示します。このミッションは、BPプログラムのミッションとほとんど同じですが、短期ミ

ッションとしては、「ピア・レビューができる仲間づくり」と「子育てに必要な基礎知識の提供」により、「親が心身ともに安定した状態で子どもと向き合える状況」を実現することです。これは、プログラムの実施中から数か月の間に実現すべきミッションです。

中期ミッションは、子どもが幼児期の間に実現すべきミッションで、「親子の絆づくり」と子どもの心に「心の安定根」をはぐくむことです。そして、長期ミッションとして、「子育てをする人生を選んで良かったと思えるように子育て家庭を応援すること」と、思春期・青年期を越えて、元気に社会に巣立っていけるような心身ともに健康な子どもを育てることです。

これらのミッションが実現できれば、今深刻化している「子ども虐待」や母親の「産後うつ病」、不登校やいじめ、社会的引きこもりの若者などを減少させられるものと考えています。そして、子どもが小さい時期の不必要な離婚も減少させたいと考えています。

— 短期ミッション — 中期ミッション — 長期ミッション —

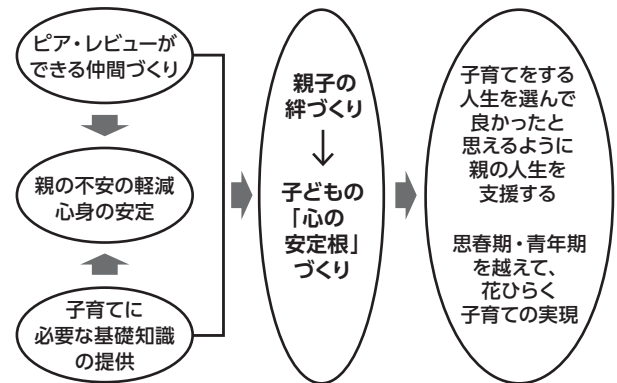


図1 BP2プログラムのミッション（使命）

### KKIの第4期のスタートの年に！

KKIが発足したのは阪神淡路大震災が起きた年（1995年）の12月です。KKIは会員制のボランティア団体として発足しました。そしてNPO法人になった今も、会員のみなさまに支えられて今日まで活動を続けています。新しい会員のみなさまも多くなっていますので、最後にKKIの22年を簡単に振り返り、KKIの到達点と今後について述べます。

本会の活動は、大きく3つの時期に分けて考えることができます。第1期は1995年から2002年までで、地域の親たちのグループ子育てへの支援が中心でした。第2期は2002年から2010年までで、カナダの親支援プログラムのNobody's Perfect（NPと略称）を中心に活動を進めてきた時期です。第3期はNPの実践からBPプログラムを開発・発表した2010年から現在までの時期です。そして、KKIの活動は、BP2プログラムの発表により、今年より新しい段階に入ります。KKIの第4期の始まりです。そして、これからが本会が真価を発揮する時期ではないかと考えています。

（大阪人間科学大学副学長）